

\みんなで考えよう/ これからの自治会(町内会)運営

地域で安心して気持ちよく暮らしていくためには、子どもや高齢者の見守り、ごみ集積所の維持管理、清掃活動、広報物の回覧、防災活動や親睦行事など、自治会の活動が必要不可欠です。

一方で、自治会加入率の低下や、高齢化による担い手不足など地域活動のつながりの希薄化への危機感が高まっています。

今後の自治会運営について考えてみましょう。

自治会支援アドバイザー事業について

出雲市では、令和3年度から住民のニーズに応えられる自治会づくりを支援するため、「自治会支援アドバイザー事業」を実施しています。この事業では、モデル地区を指定し、専門家のアドバイスを受けながら、組織体制や活動内容の見直しなどに取り組んでいます。

また、このアドバイザー事業の他に、各地区での取組の参考になるよう、市内における自治会に関する取組の事例集を作成しています。

これらについては、いずれもホームページで確認することができますので、ぜひ参考にしてください。

モデル地区の
活動状況▶



自治会に関する
取組事例集▶



活動内容の見直し事例

- 自治協会や各団体の組織を見直し、経費削減や役職の負担軽減について検討した。
- 地域運動会を見直し、町内会対抗ではなく、誰でも参加できるスポーツフェスタに変更した。
- 消防団の待遇を改善して欠員を解消するなど、各団体でも見直しの成果が出始めている。
- 子育て世帯向けのイベントを開催することで、未加入世帯も地区活動へ参加し、関心を持ってもらえるようになってきた。
- 自治協会のホームページ新設や、SNS(フェイスブック、LINE)による情報発信に取り組んだ。
- まちづくり懇談会を開催し、自治会で行われている新しい取組を紹介することができた。
【取組例: 準会員制、高齢者世帯への役割免除、休会制度、会費振込制】
- 地区内にある事業所の派遣会社と、外国人住民への対応や交流について意見交換し、外国人に対する情報提供の手法が確立された。



自治会の付き合いは、なんとなくわずらわしいと感じておられるかもしれませんが、日ごろのご近所との付き合いは生活に活気や安心を与えてくれます。

自治会について、「メリットが見えにくい」「加入しなくても困らない」という声もありますが、災害時等いざという時に頼りになるのは、地域の絆です。

災害発生時には、消防、自衛隊などの「公助」がすぐに、全ての地域へ届かないかもしれません。すぐに現場に駆け付けられるのは身近なご近所の方々です。

自治会から生まれる地域の絆について、今一度、考えてみませんか？



ポイ禁だより

～きれいなまち いずも～

今年度、出雲市ポイ捨て禁止推進協議会では、「環境美化表彰」「ポイ捨て禁止キャンペーン」などに取り組みました。歩道や川などへのポイ捨てや、飼い犬のふんの放置は依然としてなりません。

協議会は今後も「きれいなまち いずも」のため、マナーの向上を呼びかけていきますので、ご協力をお願いします。

令和5年度 環境美化表彰式

「出雲市ポイ捨て禁止推進協議会表彰要綱」に基づき、市内において環境美化活動を行い、その活動に顕著な功績があった方を表彰しました。

今年度は個人2人、1団体が受賞されました。

ポイ捨て禁止ポスターコンクール

小・中・高校生を対象に、ポイ捨て禁止啓発ポスターを募集し、105作品の応募がありました。大賞作品はポスターに加工し、市内の事業所などに掲示していただきました。

また、11月に「いずも産業未来博2023」の会場(出雲ドーム)で表彰式及び応募作品の展示を行いました。会場内に「ポイ捨てゼロコーナー」を設け、来場者に「あなたの美化活動」などを記入してもらい、地域環境美化について考えていただきました。

ポイ捨て禁止キャンペーン

- ◆10月に協議会委員とディオッサ出雲FCのメンバーで出雲駅伝のコースである市役所周辺のごみ拾いを行いました。その後、「夢フェスタin出雲」の会場(出雲市中心商店街)で啓発グッズを配布し、ポイ捨て禁止を呼びかけました。
- ◆2月に「ストップ地球温暖化フェア」の会場(ゆめタウン出雲)にポイ捨て禁止ポスターを展示し、協議会委員がポイ捨て禁止を呼びかけました。



18万人ポイ捨て一掃大作戦

毎年10月のポイ捨て禁止月間に行っている18万人ポイ捨て一掃大作戦は、今年度も、個人、自治会、企業、学校、市民団体など14,533人の皆さんにご参加いただきました。ご協力いただき、ありがとうございました。



ポイ捨てされたごみには川から海へ流れ出るものもあります

出雲市は、一般社団法人海と日本プロジェクト in しまねと連携し、「海ごみゼロ」のための活動を行いました。

「ちょいスマ拾い箱」製作

出雲工業高校、島根島津、島根富士通、出雲村田製作所と連携し、ごみの量をセンサーで把握し市へ知らせる「ちょっとスマート」な拾い箱^{*}を製作しました。

1月から道の駅キララ多伎に期間限定で設置しました。

^{*}拾い箱とは、海やまちで拾ったごみを入られる専用の箱です。

高校生の海ごみ調査

7月に平田高校JRC部、出雲西高校インターアクトクラブ、大社高校JRC部と共に西浜海岸で海洋ごみの調査を行いました。



海洋ごみ分類結果

種類別 生活ごみ60%、漁業ごみ30%、その他10%
言語表記別 日本20%、外国語表記30%、不明50%